

## 令和7年度 自己評価計画書に対する最終評価

石川県立内灘高等学校						
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題
1 分かる授業の実践と主体性の育成 ICTの効果的な活用と協働的な学びの深化を通して、生徒一人ひとりの基礎学力向上及び主体的な学びを促進し、課題を見つけ解決する力を育むことで個々の進路実現につなげていく。	①	教務課 進路指導課	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A評価 (95.6%)  前期 (93.8%)	年間を通じて、授業におけるICT活用は、生徒から高く支持された。今後も情報機器等を使用した授業実践を継続し、残り4.4%の生徒で情報機器の使用の際に困っていたり支援を必要としていたりしないか、職員会議などで情報共有を図りながら限りなく100%を目指したい。
	②		【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A評価 (94.0%)  (後期) (90.7%)	授業のねらい・流れの明確化や最後のふりかえりなど学習のメタ認知を進めながら生徒の理解を手助けしているうえ、GIGA教育推進校内研修として、教員が相互に授業見学を行い、自己研鑽をしている結果だと分析する。
	③		【努力指標】 生徒がICT機器を進路学習・総合的な探究の時間等に活用し、個々に応じた進路学習を行っている。	「ICT機器(Chromebook)を利用して自身の進路学習・総合的な探究の時間の学習ができています」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (88.2%)  第1回 (93.8%)	総合的な探究の時間においては、生徒一人ひとりの進路学習や課題研究に応じて、Chromebookを活用しながら情報収集や成果物の作成、発表を行っている。今後は、生徒が自ら目標を明確にしたうえで、その達成手段としてChromebookを主体的かつ積極的に活用できるよう、授業の在り方をさらに工夫していきたい。
	④		【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (89.5%)  第1回 (86.9%)	教員は小テストや課題の内容や提示の仕方を工夫している。特にGIGAによるネット課題など、生徒が自宅からでも提出できる課題の配信など生徒の取り組みやすさに配慮している教員が多い。
	⑤		【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者数を抑制する。	「進路希望未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	A評価 1年生(8.9%) 2年生(2.8%)	1月の進路希望調査において、1年生56名中5名(8.9%)、2年生71名中2名(2.8%)が進路希望が未定であった。今後は、未定の生徒に対し、進路行事や探究活動を通じて自己の在り方や生き方について考える機会を与え、将来の目標を明確にできるよう指導していく。(参考：9月の進路希望調査において、1年生63名中6名(9.5%)、2年生72名中6名(8.3%)が進路希望未定)
	⑥		【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、本人の進路実現達成者90%とする。	進学・就職の進路実現達成者の割合を90%とする A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B評価 (89.4%)	3年生47名中進学希望20名、就職希望22名の進路が決定した。個々の適性を見極めた早期のマッチング指導が功を奏し、決定者の満足度は高いと思われる。残りの5名についてはアルバイト等を希望しており、正規雇用や進学という形での進路決定には至らなかった。
学校関係者評価委員会の評価		授業においてICT機器が効果的に活用され、生徒の学習意欲の喚起につながっている。今後、「AIにできること」と「人にしかできないこと」とを生徒が判断する力を育てる必要がある。実社会を体感できる学習機会は生徒の関心や視野を広げる点で有意義であり、今後も継続・発展させてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		生徒の学習意欲を喚起するためにICTと生成AIを活用し、授業力の向上を目指して校内研修の充実をはかる。実社会を体感できる学習機会については、今後も継続・発展をはかっていく。				

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題
2	<b>挨拶・人間関係づくりなどに留意した生徒指導や教育相談の実践</b> 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて自己決定力を育む。	生徒課 保健相談課 総務課 学年	【満足度指標】 生徒がはじめの不安心できる学校生活を送ることができる。	「学校ははじめに対する取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B評価 (83.7%)  第1回 (87.7%)	生徒が安心・安全を実感できる教育環境の構築に向け、組織的な見守りと迅速な初動対応を徹底した。今後も教職員の連携を密にし、早期発見・早期解決を図ることで、いじめ重大事態の発生を確実に抑止していく
			【努力目標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合う機会を作る。	「家庭において、半年に1度、スマートフォン等の使用ルールについて話し合い、SNSトラブル回避を行った」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	B評価 (50.3%)  第1回 (51.2%)	SNSによるトラブルを防ぐためにも、スマートフォン等の使用方法について家庭で話をする機会を作ることは重要である。メール配信、PTA総会、学校公開時にパンフレット等で周知するなど、保護者に家庭での会話の場を設けてもらうようお願いしていく。
			【努力指標】 課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (78.4%)	生徒の多くが総合的な探究の時間を将来に紐付けて捉えており、目標の70%を上回った。自身の進路や関心に沿ったテーマ設定が定着し、学習の有用性を実感できていると評価する。今後は、単なる興味関心の追求に留まらず、探究の成果を実際の進路選択や志望理由の具体化にどう昇華させるかが課題である。そのために限られた人員で、個別の指導支援をどう強化していくか検討する必要がある。
			【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して（させて）良かった」と回答する生徒・保護者の合計の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	生徒B評価 (76.9%) 保護者A評価 (91.4%)  第1回 生徒(84.3%) 保護者(94.4%)	今後も生徒が充実感を持って学校生活を送ることができるよう、地域、保護者の協力を得ながら学校運営を行っていく。何かあれば、速やかに対応できるように、保護者生徒どちらにとっても相談しやすい環境を継続して整えていく。
学校関係者評価委員会の評価		生徒が相談しやすい雰囲気や今後を継続して心がけてほしい。学校の困り感などをPTAと情報共有し、連携していくのもよいのではないかと。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		教員が生徒と日常的に対話できる関係を構築し、きめ細やかな観察を通じて異変の早期発見・早期対応に努めるとともに、教職員間の情報提供を徹底していく。また、保護者の知見やスキルと学校のニーズを合致させ、PTAとの連携・協力をさらに深化させることで、学校全体の教育力の向上を目指す。				
3	<b>外部との連携と社会参画意識の醸成</b> 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域とともにある学校を目指す。	総務課	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (82.8%)  第1回 (83.6%)	40周年記念式典を経て、生徒に対して同窓会とのつながりを意識させることができた。今後も同窓会との連携を意識できる行事を実施していきたい。
			【努力目標】 年2回の避難訓練に加え、保護者や地域住民と連携した防災体験学習を実施し、生徒の防災意識と実践力を向上させる。	「定期的な訓練と情報共有で安全な学校環境の構築に努め、防災教育に貢献した」と回答する教員の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A評価 (100%)  第1回 (94.7%)	今年度も避難訓練だけではなく、外部と連携して発災時の演習を行った。災害時の対応に関して生徒の意識を高め、柔軟に対応できるよう、本校の防災体制の強化に引き続き努めていきたい。
			【努力指標】 ホームページやお知らせの充実等により、各ニーズに応じた学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B評価 (89.6%)  第1回 (94.2%)	ホームページにおける情報発信や内高新聞など、本校の広報活動について、保護者や地域の方から多くの好意的なご意見をいただいている。生徒のアイデアを生かし、学校内の様子がわかりやすくなるよう、日々広報活動を行っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		多くの生徒が学校行事の中で、地域や同窓会と連携をとっていることを実感している。生徒の地域参画の機運を継続して育んでほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		地域や同窓会との連携は生徒の教育活動において、大変有意義である。今後も地域や同窓会との連携を意識できる行事を実施していきたい。また、学校の取組についての情報発信として、HPの充実、ポスターやチラシの掲示など広報活動をさらに工夫し、本校の魅力を発信していきたい。				
4	<b>教職員の多忙化改善</b> 組織的な連携とICT活用で業務効率化を図り、教員が創造的な教育活動に注力できる環境を整備する。	教頭	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (94.7%)  第1回 (100%)	全職員が肯定的な回答をしている。各自、時間外勤務の削減に向け計画的に業務に取り組んでいる。教員数が少ないため、主任に業務が偏っていることが少し見られるので、課内での業務内容の共通理解と適切な業務分担が必要である。
			【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「デジタル技術を活用し、業務の効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A評価 (100%)  第1回 (100%)	全担当課において肯定的な回答が見られ、積極的にデジタル技術を活用した業務改善に取り組んでいる。その事が各教員の時間外勤務の縮減にもつながっている。
学校関係者評価委員会の評価		教職員の多忙化改善をさらに推進していく上で、生成AIを活用してはどうか。また、教職員が働き方として大きな目標を共有しつつも、方法は柔軟に見直しをし、割り切る力や業務を分けて考える視点が大切である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		教職員がワークライフバランスをはかれるよう、ICT機器や生成AIの活用による業務効率化、業務の優先順位をつけるタイムマネジメントを意識した働き方、各課での業務の可視化などを行う体制を構築していきたい。職員の生成AI活用に関する校内研修について検討していく。				